

(表37) 負傷発生の身体の部位の状況

(昭和50年度福島県)

学校種別	頭部	顔部	体幹部	上肢部	下肢部	計
	%	%	%	%	%	%
小学校	9.8	19.6	6.2	●37.5	26.9	100
中学校	6.9	10.1	9.5	35.4	●38.1	100
高等学校	7.4	11.7	13.9	28.5	●38.5	100
幼稚園	22.2	●32.3	6.4	24.0	15.1	100

(注) ●は、各学校種別ごとに構成率が最も高いもの。

幼稚園ではその五四%が頭部・顔面に発生しており、幼児の身体発達が頭がちでからだのバランスを崩しやすく、また倒れたりした場合、支える腕の力も弱いことから顔・頭にけがをしやすいうことがわかる。

(5) 死亡の原因  
学校の管理下における廃疾・死亡のうち、廃疾は発生の場合その他が負傷に類似しているので省略し、ここでは死亡について昭和五十年年度の死因別の状況をみることにする。

すなわち、死因別の状況は表38に示すとおりであるが、ここで目につくことは、心臓性疾患(急性心不全、心衰

(表38) 死因の状況 (昭和50年度福島県)

学校種別	死因 (心不全・心臓性疾患・心臓麻痺・心衰等)	頭部外傷	脳出血・蛛網膜下出血	硬膜下出血	電撃傷	計
小学校		2				2
中学校	2				1	3
高等学校	2	1	1			4
計	4	3	1		1	9

(注) 本表に掲げた件数以外に、通学中の交通事故死(自動車損保賠償金受領したため、安全会からは生花料のみ給付したもの)

弱、狭心症、心臓麻痺など)による死亡が、全死亡九件中、四件を占めていることである。この傾向は全国的に認められ、昭和五十年年度における全国の死亡事故においても、表39のとおり心臓性疾患による死亡は、小学校で二九・五%、中学校で四二・〇%、高等学校で三八・六%に達し、毎年同じような傾向を示している。

これら心臓性疾患による死亡の発生状況を見ると、走運動・水泳・格技等、身体運動が相当に激しく、心臓に負担のかかった場合も多いが、軽度の運動中など、過重な負担がかかったと思われる状態が発生したのも見受けられる。それも平常健康体と考えられ、体育活動などにも普通に参加していた者が突然倒れるというケースが多い。こうした死亡を防ぐことは、もっぱら保健管理の

(表39) 死亡の死因別の状況 (昭和50年度全国)

学校種別	死因 (心不全・心臓性疾患・心臓麻痺・心衰等)	頭部外傷	溺死	脳出血・蛛網膜下出血	硬膜下出血	頭部損傷	(溺死以外)	日射病	その他	合計
小学校	23	28	13	1	3	4	3	-	3	78
中学校	30	15	6	4	1	1	3	1	8	69
高等学校	34	28	1	5	6	1	-	5	8	88
高等専門学校	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
幼稚園	-	1	2	1	-	-	-	-	-	4
保育所	-	2	3	-	-	-	-	-	2	7
合計	87	74	25	12	10	6	6	6	21	247

6、本県の災害発生率と全国との比較  
本県の災害発生率(既述の給付率とは意味が異なり、給付件数から、給付が数か月にわたった場合の継続件数を差引いた実件数を、加入者数で割ったもの)は、二・七二%で全国平均の三・二五%と比較すると低率である。

この災害発生率は、相当の地域差があり、昭和五十年年度の府県分布の状況は表40に示すとおりである。

学校安全会の災害共済給付制度が全国同一の基準で行われながら、なぜこ

面から考えられなければならないことであろうが、一日も早く有効な対策の樹立が心から望まれるところである。

(表40) 災害発生率の府県分布 (昭和50年度)

災害発生率 %	都道府県数
0.51 ~ 1.00	1
1.01 ~ 1.50	1
1.51 ~ 2.00	4
2.01 ~ 2.50	13※
2.51 ~ 3.00	12
3.01 ~ 3.50	10
3.51 ~ 4.00	12
4.01 ~ 4.50	4
4.51 ~ 5.00	3
計	47

(注) ※は本県該当箇所  
全国順位で本県は第39位である。

のような地域差が生ずるのか、その要素として考えられるもの一つは、医療機関の分布である。安全会の給付制度が医療を受けたものを対象とする以上災害が発生してもその地域に医療機関がなければ医療を受けることができない。

安全会の災害の件数に計上されない。表中〇・五〇〜一・〇〇にある一県は沖縄県であり、医療機関の未整備が大なる原因となつてこのような低い数値となつている。また、他の原因として安全教育の充実度・地域の医療思想の普及度・養護教諭の配置等の状況その他が考えられ、これらが複雑に関係して地域差が生ずるものであろう。

ちなみに、本県の一人当たりの平均給付額は五、八五三円で、全国平均の四、四四一円に比し著しく高額であり岩手、山梨、沖縄、北海道に次いで全国第五位である。このことは、本県の災害発生数は他県と比較して、多い方ではないが、一件当たりの医療費は高額であり、割合に重い災害が多いことを現しているといえる。